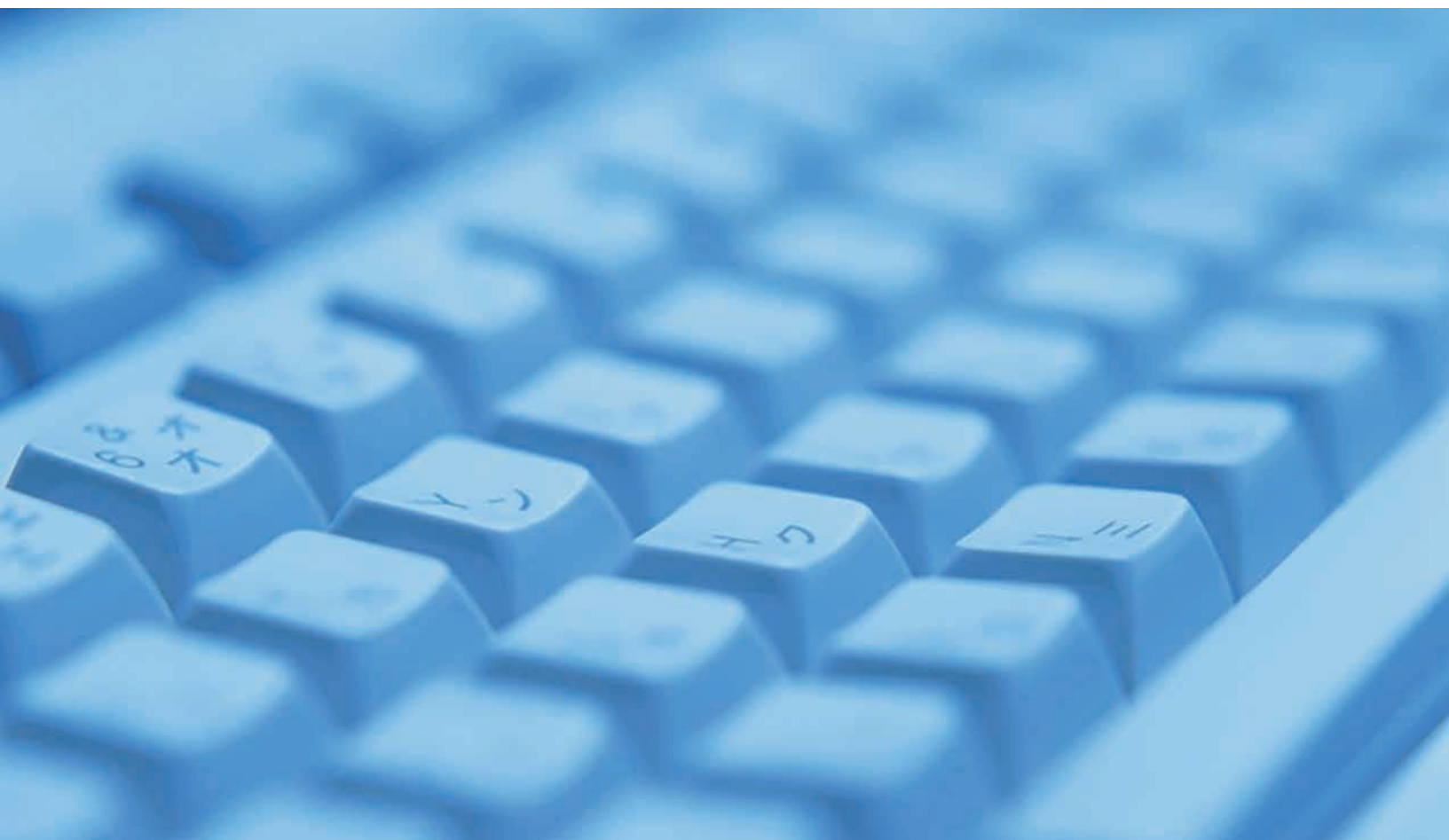


東海大学
情報教育センター
ICT Education Center, Tokai University

受講案内

2014年度以降入学生対象



なぜ、情報を学ぶ必要があるのか？



高度に発達した情報社会では、
どの分野でも ICT が使われている。

情報分野だけでなく、第一次産業（農業、漁業など）、第二次産業（工業・インフラなど）、第三次産業（商業、サービス業など）あらゆる分野で、コンピュータやネットワークが利用されています。

今や ICT と社会システムは一体化しています。

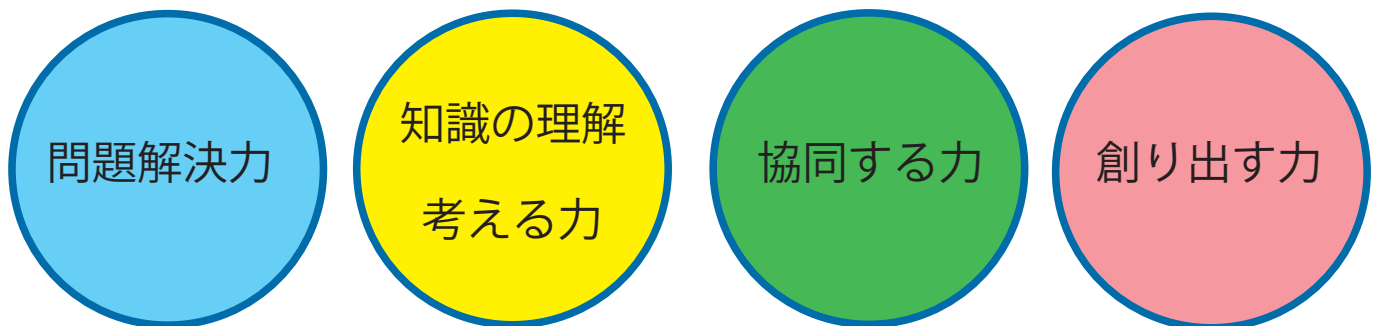


社会で求められている力は？

社会で働いたり研究したりする時に、
コンピュータをなんとなく操作できるだけで良いのだろうか？



ICT の活用力が必要になっている。



情報を正しく学び、活用できるようになりましょう。

東海大学情報教育センターとは

東海大学情報教育センターは、東海大学湘南キャンパスの学生を対象にした情報の授業を担当している部門です。

情報教育の専門家が、30科目以上の授業を100以上開講しています。

情報の授業は、パソコンの使い方だけの授業ではありません。

- ・知識の習得
- ・データの収集・整理・分析
- ・コンテンツを創り出す
- ・プレゼンテーション
- ・ソフトウェアの開発
- ・システムの構築・管理

などさまざまな内容があります。

これらにおいて、知識を正しく理解して、実習を通して実践的な活用ができるようになるのが目標です。

自分の学科・専攻の授業に加えて、情報教育センターの授業を履修することで、知識とスキルは向上することでしょう。

このパンフレットを参考にして、ぜひ受講して下さい。

自分の学科・専攻の授業
+
情報教育センターの授業



スキルアップ!

情報教育センターの開講科目

東海大学情報教育センターでは、情報に関する様々な科目を開講しています。
あなたの学習プランに合った履修ができます。

① どの学科・専攻の学生でも、1科目から履修できる

学科・専攻を問わず、多くの開講科目から、自分が習得したい内容を選べます。

大学生活・研究・就職・社会活動で役に立つ情報の授業を受講してみてください。

ICT関連の資格取得（ITパスポート試験や基本情報技術者試験など）をサポートする内容や、先端技術を学ぶ内容の、「自由選択科目」も設置しています。

② 系統的に学習できて、成績証明も取得できる（副専攻）

情報分野は幅広く、1つの科目だけでは、実際に活用する力を身に付けるには十分とはいえません。

情報教育センターでは、系統的な学習ができるように2つの副専攻を用意しています。

「情報処理副専攻」

：ICTの技術者に必要な学習

「デジタルコミュニケーション副専攻」

：ICTを利用する立場での能力養成

それぞれの副専攻で指定された科目の中から20単位以上を取得すると、副専攻修了が成績証明書に記載され、系統的な学習をした証明になります。

③ ICTのプロフェッショナルを目指せる（ICT特定プログラム）

さらに高度なICTに関する能力を養成する選抜制の

「ICT特定プログラム」（40単位以上）

を設置しています。ここでは少人数制の指導で、高度な内容を優先的にじっくりと学べます。

修了時には大学から特定プログラム修了証が発行されて、副専攻よりレベルの高い能力を習得した証明になります。

（詳しくは、このパンフレットのP.10をご覧ください）

情報教育センター開講科目（2014年度以降入学生対象）

科目名	グレード ナンバー	単位数	情報処理 副専攻 (20単位以上)	デジタル コミュニケーション 副専攻 (20単位以上)	ICT 特定 プログラム (40単位以上)
情報システム入門 A	V100	2	○	○	○
情報システム入門 B	V100	2	○	○	○
データアナリシス	V100	2	○		○
インターネットテクノロジー入門	V100	2	○		
プログラミング入門	V100	2	○		
プログラミング基礎	V100	2	○		○
プログラミング応用	V200	2	○		
モバイルアプリケーションプログラミング	V300	2	○		
オブジェクト指向プログラミング	V300	2	○		○
情報の科学	V200	2	○		○
ネットワーキング	V200	2	○		○
アルゴリズム	V300	2	○		
コンピュータグラフィックス	V300	2	○		○
コンピュータシミュレーション	V300	2	○		
オペレーティングシステム	V300	2	○		
ソフトウェア工学	V300	2	○		
データベース	V300	2	○		
情報セキュリティ	V300	2	○		
サイバープレゼンテーション	V100	2		○	○
システムオペレーション入門	V100	2		○	○
WEBクリエイション入門	V100	2		○	○
WEBクリエイション	V200	2		○	○
WEBクリエイション応用	V300	4		○	
マルチメディアコンピューティング入門	V100	2		○	○
マルチメディアコンピューティング	V200	2		○	
ムービークリエイション	V200	2		○	
ミュージッククリエイション	V200	2		○	
ビジネスIT基礎A	V300	2		○	○
ビジネスIT基礎B	V300	2		○	○
ビジネスコンピューティングA	V200	2			
ビジネスコンピューティングB	V200	2			
情報技術者基礎A	V300	2			
情報技術者基礎B	V300	2			
ICTプロフェッショナル	V300	2			
ICT概論	V100	2	ICT 特定プログラム生のみ履修可		○
ICTスキルアップ	V200	4	ICT 特定プログラム生のみ履修可		○
ICTコラボレーション	V300	4	ICT 特定プログラム生のみ履修可		○
ICTスタートアップセミナー	V100	2	ICT 特定プログラム生のみ履修可		○
ICTゼミナール入門	V200	2	ICT 特定プログラム生のみ履修可		○
ICTゼミナールA	V400	2	ICT 特定プログラム生のみ履修可		必修
ICTゼミナールB	V400	2	ICT 特定プログラム生のみ履修可		必修
ICTファイナルセミナー	V200	2	ICT 特定プログラム生のみ履修可		○

授業の詳細

副専攻共通科目

情報教育センター開講科目での、基礎知識と基本的なスキルを身に付けるための授業が「情報システム入門」です。内容が広範囲なので、AとBに分かれています。まず、ここから学び始めて下さい。

情報システム入門 A

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 情報リテラシー力 (情報技術の基礎力)

コンピュータの構成・動作のしくみ・入出力装置の役割などといったハードウェアに関する基礎知識やソフトウェアを利用するための基礎知識を学ぶと共に、OS やオフィスソフトウェアの活用を学ぶ。

情報システム入門 B

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 情報リテラシー力 (情報技術の基礎力)

ネットワークのしくみ・セキュリティおよびモラルについて学ぶと共に、WWWを利用した情報検索と収集・情報発信の実習を行う。また、マルチメディアに関する基礎知識や効果的な利用法について学習する。

情報処理副専攻科目

情報処理副専攻科目は、ソフトウェア開発スキルを身に付けるための、基礎知識の習得と実践を行う科目で構成されています。基礎からの積み重ねが重要なので、グレードナンバーが低い科目から順番に履修していくことをおすすめします。

データアナリシス

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 情報処理力 (論理力, 問題解決力)

現代のビジネスや研究では必須の「データ分析」の基本を学習すると共に、分析結果を正しく評価できる力を養うことを授業目標とする。データ収集からグラフ作成、相関と回帰、グループの比較、さらに多変量解析の一部までを網羅する。

インターネットテクノロジー入門

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 情報リテラシー力 (情報技術の基礎力)

Web サービス、電子メールや SNS などを支えるインターネットテクノロジーやその基本構成を学び、ネットワークの専門用語を系統立てて学習して、インターネット技術に関して深く理解することを目指す。

プログラミング入門

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

プログラミング未経験者向けの授業。
言語に依存しないプログラミングの基本的な考え方を、コンピュータを用いない思考トレーニングや、学習ツールを用いて養う。
次のステップは、プログラミング基礎。

プログラミング基礎

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

プログラミング言語によるソフトウェア開発の基礎を学ぶ。授業によって言語 (C, C++, JAVA, C# など) が異なるので、シラバスやガイダンスでの確認が必須となる。
次のステップは、プログラミング応用。

プログラミング応用

グレード V200

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

プログラミング基礎相当の内容を習得した人向けの応用的な内容の授業で、プログラミング基礎と同じ言語での選択が必須となる。
次のステップは、アルゴリズム、オブジェクト指向プログラミングなど。

モバイルアプリケーションプログラミング

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力, ICT による情報処理力

スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末上で動作するアプリケーションソフトウェアの開発を学ぶ。
プログラミング応用およびオブジェクト指向プログラミング相当の内容を習得していることを前提に授業を行う。

オブジェクト指向プログラミング

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

現在のアプリやサーバプログラミングで必須となるオブジェクト指向を用いたソフトウェア開発の基礎について学ぶ。

プログラミング応用 (C++, JAVA, C#) 相当の内容を習得していることを前提に授業を行う。

ネットワークング

グレード V200

育成する力 自ら考える力, 情報処理力 (論理力, 問題解決力)

インターネットで活用されているネットワーク技術の具体例を学習しながら、自らの力でプロトコル群の体系を学び、また各プロトコルがどのような機能を持って動作しているのか、という論理的な理解を深めることを目標とする。

コンピュータグラフィックス

グレード V300

育成する力 自ら考える力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

プログラミング言語による 2DCG・3DCG 描画プログラムの製作実習を通して、コンピュータグラフィックスの基本原則や基礎知識を学習すると共に、さまざまな分野で十分に活用できる応用力を養う。前提としてプログラミング基礎相当の内容を習得済みとする。

オペレーティングシステム

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力, ICTによる情報処理力

コンピュータを動かす根幹のソフトウェア、オペレーティングシステム (OS) について学ぶ。OS の役割、歴史と変遷、機能、基本操作を Windows 系 OS と UNIX 系 OS を比較しながら実習を通して学習することを目標とする。

データベース

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 情報処理力 (論理力, 問題解決力)

データベースを設計できるようになるためには、データのモデリング、正規化、スキーマ設計などの技術的知識を習得して、現状の問題点の把握と改善方法を論理的に思考する力や、ソフトウェア設計開発能力、利用者のニーズを予測する想像力などが必要になる。これらの知識を体系的に理解し、活用する能力を養う。

情報の科学

グレード V200

育成する力 自ら考える力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

現在の情報社会を支えている情報システムのしくみを正しく理解し、またソフトウェア開発における基本的なアルゴリズムや技法を学び、問題解決に情報を活用できるようになることを目標とする。内容は IPA の基本情報技術者試験のテクノロジ系に準拠する。

アルゴリズム

グレード V300

育成する力 自ら考える力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

問題を解くための処理の手順 (アルゴリズム) を、良く使うパターンで学び、さらに自分でアルゴリズムを考えられるようになることで、実際のプログラム開発において、性能向上や効率的な処理に生かせるようになることを目標とする。

コンピュータシミュレーション

グレード V300

育成する力 自ら考える力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

連続系や離散系の各種例題によるプログラミング実習を通してコンピュータシミュレーションの基礎を学習すると共に、さまざまな分野で十分に活用できる応用力を養う。前提としてプログラミング基礎相当の内容を習得済みとする。

ソフトウェア工学

グレード V300

育成する力 自ら考える力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

ソフトウェア開発における代表的な開発モデルについて、各工程と管理手法の内容や、諸問題への対応を解説する。発注者または開発プロジェクトの構成者の立場に立った要求定義および開発プロセス、両者にとって重要なプロジェクト管理について理解する。

情報セキュリティ

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 情報処理力 (論理力, 問題解決力)

高度にネットワークが発達した情報社会において、安全な情報システムの構築は重要な課題である。

この授業では、暗号化などの情報セキュリティ技術の基礎理論と、それを応用した、不正アクセスの防止対策などの事例を学んで、情報を安全に取り扱うための知識や技術を習得することを目標とする。

デジタルコミュニケーション副専攻科目

デジタルコミュニケーション副専攻科目は、幅広い分野で活用可能なネットワークとマルチメディア関連の基礎知識の習得と実践を行う科目で構成されています。

サイバープレゼンテーション

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 集い力
創造と表現力 (情報技術の応用力, 総合芸術力)

自己の考えを明確かつ効果的に表現、伝達するためのプレゼンテーション技術を習得することを目標とする。具体的には、プレゼンテーションのテーマの選択から発表に至るまで実習を中心にを行い、プレゼンテーションに必要なマルチメディア技術を習得する。

システムオペレーション入門

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 情報処理力 (論理力, 問題解決力)

企業での業務の情報化を推進する役割を持つシステム管理者に関する初歩的な知識および技術について、講義を中心として学習する。システム管理者の役割、情報機器やシステムの基礎知識、業務の問題把握と解決、安全な情報収集と活用、業務の情報化やシステム化について概説し、実習課題を通して問題解決力を養う。

WEB クリエイション入門

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 情報リテラシー力 (情報技術の基礎力)

Web ページによる情報発信において、インターネット・WWW・HTML の基礎知識や情報の効果的な表現方法、Web ページのデザインを定義する CSS (カスケーディングスタイルシート) を理解して、Web ページ作成実習を通して実践的に学習する。

次のステップは、WEB クリエイション。

WEB クリエイション

グレード V200

育成する力 自ら考える力, 創造と表現力 (情報技術の応用力)

ユーザビリティを考慮したインターフェースおよびインタラクティブな Web コンテンツの作成を目的に、JavaScript をはじめとしたクライアントサイドスクリプト言語による Web ページと JSP や PHP などによるサーバサイトスクリプト言語による Web ページ開発実習を行う。前提として WEB クリエイション入門相当の内容を習得済みとする。

次のステップは、WEB クリエイション応用。

WEB クリエイション応用

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 挑み力, 成し遂げ力,
創造と表現力 (情報技術の応用力)

データベースを利用した Web アプリケーションを構築するための基本技術の習得を目標とする。データベースの基礎知識を理解したうえで、具体的な例題を用いて、データベースを利用した Web アプリケーションの作成実習を行い基本的な技術を学ぶ。

前提として WEB クリエイション相当の内容を習得済みとする。

週 2 回授業。

マルチメディアコンピューティング入門

グレード V100

育成する力 自ら考える力, 情報リテラシー力 (情報技術の基礎力)

多くのソフトウェアの実習を通して、マルチメディア技術を理解して、マルチメディアの取り扱いと活用方法を習得することを目標とする。具体的には、フォトタッチソフトウェア、ドロー系ソフトウェア、アニメーション作成ソフトウェアなどの実習を入門レベルからを行い、作品の制作実習を通じて自ら考える力を養う。さらに、ソフトウェアが有する機能の背景となる技術を概説する。

次のステップはマルチメディアコンピューティング。

マルチメディアコンピューティング

グレード V200

育成する力 自ら考える力,
創造と表現力 (情報技術の応用力, 総合芸術力)

マルチメディア技術およびそれを支える各技術の基礎を学習する。具体的には、デジタル画像、色彩表現、画像形式など、コンピュータグラフィックスや画像処理分野に共通する基礎的な知識とその応用について講義する。さらに、学習した内容は、対応したマルチメディアソフトウェアの実習を通して確実に身につけることを目指す。

前提としてマルチメディアコンピューティング入門相当の内容を習得済みとする。

ムービークリエイション

グレード V200

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力
創造と表現力 (情報技術の応用力, 総合芸術力)

動画コンテンツの作成について実践的に学習する。ムービー作成ソフトウェア、ビデオ編集ソフトウェア、映像加工ソフトウェアについて学習するとともに、自らのアイデアを作品にすることにより、最後まで成し遂げる喜びを体験する。また、メディアの歴史と技術を通して創造プロセスの意味を考える映像研究の紹介も行う。

ミュージッククリエイション

グレード V200

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力
創造と表現力 (情報技術の応用力, 総合芸術力)

コンピュータミュージックのシステムを用い、自己の内面にある「イメージ」を音楽で具現化するための ICT 活用法を学習する。現在、心に描いた音楽のイメージを物理現象に置き換える方法、手段は情報技術によって急激に進歩している。作曲に関する基礎的な音楽理論と音楽制作ソフトウェアの操作方法をバランスよく学習する。

ビジネス IT 基礎 A

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 情報処理力 (論理力, 問題解決力)

ビジネスに必要な基礎知識の中で、ストラテジ系とマネジメント系の知識について学習を進めることを目的とする。

学習範囲は IPA の IT パスポート試験シラバスに準拠する。ビジネス IT 基礎 B も履修を推奨する。履修順序は前後・同時でもかまわない。

ビジネス IT 基礎 B

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 情報処理力 (論理力, 問題解決力)

ビジネスに必要な基礎知識の中で、テクノロジー系の知識について学習を進めることを目的とする。

学習範囲は IPA の IT パスポート試験シラバスに準拠する。ビジネス IT 基礎 A も履修を推奨する。履修順序は前後・同時でもかまわない。

その他の自由選択科目

ビジネスコンピューティング A

グレード V200

育成する力 挑み力, 成し遂げ力,
情報リテラシー力 (情報技術の基礎力)

ワードプロセッサを用いたビジネス文書の作成とプレゼンテーションソフトによる発表資料作成について実習を交えて講義を行う。操作技術については文書処理技能・プレゼンテーション技能の認定試験に対応した内容を行う。ただし試験対策講座ではない。

ビジネスコンピューティング B

グレード V200

育成する力 挑み力, 成し遂げ力,
情報リテラシー力 (情報技術の基礎力)

表計算とデータベースを用いたビジネスデータの処理・分析やビジネス図表の作成について実習を交えて講義を行う。操作技術については表計算処理技能・ビジネスデータベース技能の認定試験に対応した内容を行う。ただし試験対策講座ではない。

情報技術者基礎 A

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

高度 IT 人材を目指すための基礎的な知識の中で、テクノロジー系の知識について学習を進めることを目的とする。学習範囲は IPA の基本情報技術者試験シラバスに準拠する。この授業の習得後に、情報技術者基礎 B の履修を推奨する。

情報技術者基礎 B

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 成し遂げ力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力, ソフトウェア開発力)

高度 IT 人材を目指すための基礎的な知識の中で、ストラテジ系、マネジメント系、総合的設計開発技術の知識について学習を進めることを目的とする。学習範囲は IPA の基本情報技術者試験シラバスに準拠する。前提として、情報技術者基礎 A 相当を習得済みとする。

ICT プロフェッショナル

グレード V300

育成する力 自ら考える力, 挑み力, 成し遂げ力,
情報処理力 (論理力, 問題解決力)

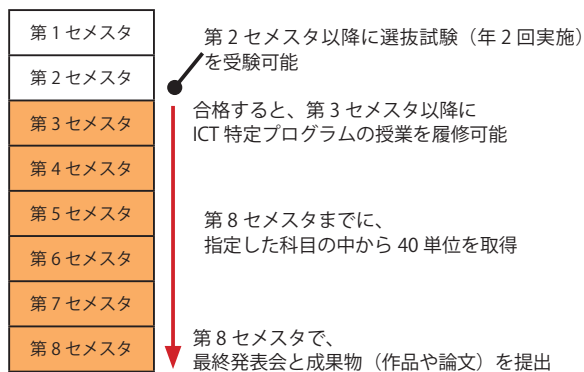
ICT 分野の最新技術に注目して、受講者のニーズに応じたテーマを決めて、分析、ディスカッション、実習などを行う。これらの内容を通して、確かな知識の理解と実践的な力を身に付けることを目標とする。

ICT 特定プログラム

「ICT 特定プログラム」は、優秀なクリエイターや技術者を養成するための、少人数制のカリキュラムです。

ICT 特定プログラムの授業を受講するには、選抜試験と面接に合格する必要があります。ICT 特定プログラム生として認められると、次の特典が得られます。

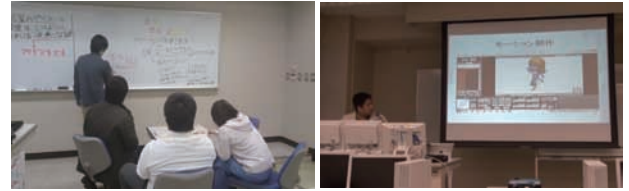
- (1) ICT 特定プログラム生だけが受講できる科目の履修
- (2) 情報教育センター開講授業の優先履修（抽選時）
- (3) 情報教育センターラボ室・ICT 実習室の利用許可
- (4) DreamSpark Premium, iOS Developer などの使用权



上図のように約3年間をかけて、じっくりとICT分野の知識と様々な力を身に付ける学習をしていきます。

指定した科目の中から40単位を取得して、さらに最終発表会や成果物の提出等の条件を満たすと、大学が正式に発行する「特定プログラム修了証」が授与され、副専攻よりもさらに1ランク高い能力の証明になります。

募集時期や詳細は、情報教育センターのWebページをご覧ください。



ICT 概論

グレード V100

育成する力 自ら考える力、情報リテラシー力（情報技術の基礎力）

ICT 分野の重要トピックスや最新情報を、情報教育センターの専任教員がオムニバス形式で解説する。合格後、最初のセメスタでの履修を推奨する。

ICT スタートアップセミナー

グレード V100

育成する力 自ら考える力、情報リテラシー力（情報技術の基礎力）

ICT 分野の学習指導や受講科目のコーディネート等を行い、受講者の将来像の実現を目指す。セミナー形式で個々に指導を行う。合格後、最初のセメスタでの履修を推奨する。

ICT ゼミナール入門

グレード V200

育成する力 自ら考える力、集い力、情報リテラシー力（情報技術の基礎力）

今後の研究・製作活動に向けた学習指導をセミナー形式で行う。第6セメスタでの履修を推奨する。

ICT スキルアップ

グレード V200

育成する力 自ら考える力、挑み力、成し遂げ力、情報処理力（論理力、問題解決力）

ICT 分野に関して、受講者それぞれの学習を進めたい内容や、弱点補強したい内容に応じて、少人数指導を実施する。週2回授業。

ICT ゼミナール A/B

グレード V400

育成する力 自ら考える力、集い力、挑み力、成し遂げ力、情報処理力（論理力、問題解決力）

最終成果物の研究・製作の学習指導を、セミナー形式で行う。原則としてICT ゼミナール入門と同一の指導教員が担当する。第7～8セメスタでの履修が必須。

ICT コラボレーション

グレード V300

育成する力 自ら考える力、挑み力、成し遂げ力、情報処理力（論理力、問題解決力）

実践的な協働作業を学ぶため、少人数のグループワークでのプロジェクト実習で、企画から成果物の発表までの一連の流れを体験する。週2回授業。

ICT ファイナルセミナー

グレード V400

育成する力 自ら考える力、集い力、挑み力、成し遂げ力、情報処理力（論理力、問題解決力）

最終成果物の発表・論文作成に向けた学習指導を行う。この授業内の最終発表会での発表は必須となる。第8セメスタでの履修が実質必須。

履修モデル

情報の分野でのスキルを身に付けるには、複数の科目を計画的に履修していくことを強くおすすめします。

まず、自分の目標を、下記の履修モデルを参考にして、(モデルなので、そのままの科目や順番で取る必要はありません) 決めて下さい。

どの目標に対しても、グレードナンバーが低い科目から受講して下さい。高度な内容の科目を受講するには、基礎からの積み重ねが必要です。基礎的な科目と応用的な科目を、同時や逆の順番で受講するのはおすすめしません。

IT パスポート試験を目指す

- 情報システム入門 A
- 情報システム入門 B
- システムオペレーション入門
- ↓
- ビジネス IT 基礎 A
- ↓
- ビジネス IT 基礎 B

基本情報技術者試験を目指す

- 情報システム入門 A
- ↓
- 情報システム入門 B
- ↓
- プログラミング基礎 (C または JAVA)
- ↓
- プログラミング応用 (C または JAVA)
- ↓
- 情報の科学
- ↓
- ネットワーク
- ↓
- アルゴリズム
- ↓
- オブジェクト指向プログラミング
- ↓
- オペレーティングシステム
- ↓
- データベース
- ↓
- 情報技術者基礎 A
- ↓
- 情報技術者基礎 B

オフィス系試験を目指す

- 情報システム入門 A
- ↓
- 情報システム入門 B
- ↓
- ビジネスコンピューティング A
- ↓
- ビジネスコンピューティング B

コンテンツを製作できるようになりたい

- マルチメディアコンピューティング入門
- ↓
- マルチメディアコンピューティング
- ↓
- サイバープレゼンテーション
- ↓
- ムービークリエイション
- ↓
- ミュージッククリエイション

特に、副専攻 (20 単位) や特定プログラム (40 単位) の取得を目指す場合は、自分の学科・専攻の授業履修を優先して、その上で各セメスタで順番に履修していく必要があります。

情報教育センターでは、履修相談日以外でも、5 号館の各研究室で、履修に関する相談を受け付けています。履修で迷ったら、ぜひ相談に来て下さい。

プログラミングを本格的に学びたい

- プログラミング基礎
- ↓
- プログラミング応用
- ↓
- アルゴリズム
- ↓
- オブジェクト指向プログラミング
- ↓
- コンピュータグラフィックス
- ↓
- コンピュータシミュレーション
- ↓
- モバイルアプリケーションプログラミング
- ↓
- ソフトウェア工学

Web サービスを構築できるようになりたい

- マルチメディアコンピューティング入門
- ↓
- WEB クリエイション入門
- ↓
- プログラミング基礎
- ↓
- WEB クリエイション
- ↓
- ネットワーク
- ↓
- オペレーティングシステム
- ↓
- 情報セキュリティ
- ↓
- データベース
- ↓
- WEB クリエイション応用

先端技術を学びたい

- 情報システム入門 A
- ↓
- 情報システム入門 B
- ↓
- インターネットテクノロジー入門
- ↓
- マルチメディアコンピューティング入門
- ↓
- 情報の科学
- ↓
- ネットワーク
- ↓
- ICT プロフェッショナル



教員紹介

— 情報教育センター所属の専任・特任教員を紹介します。



ちょうこうへい
長 幸平

情報教育センター所長・事務室
情報科学第7研究室
(9号館4階)

主な担当授業

(情報教育センター開講授業は未担当)

研究テーマ

人工衛星に搭載された様々なセンサで地球を観測するリモートセンシング

学生の皆さんへのメッセージ

地球観測衛星の観測データを解析し、環境変動に関する現象を解明するリモートセンシング技術の研究を行っています。解析対象は、海洋・陸域・雪氷域ですが、近年、海水観測に力を入れています。

大学における研究の面白さは、教員と学生がタッグを組んで研究に取り組むところにあります。世界を相手に、一緒に、面白い研究をしましょう。



いなば たけし
稲葉 毅

情報教育センター所長・事務室
コンピュータ応用第2研究室
(9号館1階)

主な担当授業

(情報教育センター開講授業は未担当)

研究テーマ

人間-機械協調システム、
ヒューマン・コンピュータ・インタラクション

学生の皆さんへのメッセージ

情報教育センターでは、コンピュータを使いこなすための入門的な科目から、高度な情報処理・通信技術に関する専門的な科目、さらに、資格取得を目指した科目など広く開講しています。担当する教員も単にコンピュータに詳しいというだけでなく、それぞれの分野における専門家です。情報に興味のある人は学部・学科にかかわらず、是非チャレンジして自分の可能性を広げてください。



まるやま ゆきこ
丸山 有紀子

情報教育センター第1研究室

主な担当授業

情報システム入門A,B, Web クリエイション科目等

研究テーマ

コンピュータを用いた学習支援システムの研究

学生の皆さんへのメッセージ

いつもは、何気なく利用しているインターネットやソーシャルメディアについて、しくみや機能をより詳しく知ることにより、日常生活の中でより楽しく有効に使えるようになります。ICT 特定プログラムでは、これらの技術と使う人の行動や考え方がどのように影響しあっているのかを考察し、生活を豊かにする新しい使い方を考えていきます。



かみむら りょうたろう
上村 龍太郎

情報教育センター第2研究室

主な担当授業

データアナリシス, Web クリエイション科目等

研究テーマ

情報理論を用いたニューラルネットワークの研究

学生の皆さんへのメッセージ

人間の脳にヒントを得た学習するコンピュータの研究開発をおこなっています。さらに、ビジネスデータ解析へ応用し、学習するコンピュータの有効性を検証しています。応用の例としてデータの見える化、複雑なデータの単純化、大規模データ処理の効率化、各種消費行動の予測、株価、外国為替の予測などがあります。



たにくち ただなり

谷口 唯成

情報教育センター第3研究室

主な担当授業

情報システム入門 A,B, Web クリエイション入門,
プログラミング科目等

研究テーマ

知的制御による非線形制御

学生の皆さんへのメッセージ

一般的な授業であるような大教室で教員の講義を聴く方式とは異なり, ICT 特定プログラムの授業では, 少人数制で行い, 学生が積極的に調べて学ぶ姿勢が必要です. そのため ICT 特定プログラムを有効に活用するためには, 単に単位取得だけでなく, 自分が何をやりたいか, 将来の進む業種・方向性を考えて受講することが求められます.



たかはし たかお

高橋 隆男

情報教育センター第4研究室

主な担当授業

情報システム入門 A,B, プログラミング科目等

研究テーマ

ロケットや人工衛星の飛行姿勢解析やシミュレーション

学生の皆さんへのメッセージ

文系・理系の枠を越えて一緒にプログラミングの世界へ入りませんか?
一緒に学んでシミュレーションやアニメーションの世界を楽しみませんか?
さ〜あ、みんなで夢の世界を実現しよう! Let it go!
プログラミングでは、論理的な思考能力とプログラミング能力を育成し、向上させます。



ひゅうがじ さちこ

日向寺 祥子

情報教育センター第5研究室

主な担当授業

情報システム入門 A,B, サイバープレゼンテーション等

研究テーマ

生体分子の反応理論

学生の皆さんへのメッセージ

コンピュータとの「良い付き合い」の方法を見つけて、学生生活をより充実したものとしませんか?
講義では主に、プレゼンテーションや WEB 制作系の科目を通して、「効果的な情報表現の手法」について皆さんと一緒に勉強しています。ICT 特定プログラムでは、計算機によるシミュレーションを用いた化学や生命科学へのアプローチを試みる予定です。少しでも興味のある学生さんは是非チャレンジしてください。



すどう のぼる

須藤 昇

情報教育センター第6研究室

主な担当授業

マルチメディアコンピューティング,
サイバープレゼンテーション, ムービークリエイション等

研究テーマ

合成開口レーダの環境計測利用, 高精細ビデオカメラの教育利用, 3D 画像処理

学生の皆さんへのメッセージ

学部・学科を超えて CG・アニメーションの技術を学んでみませんか? 映像製作の今を体験してみましょ。講義ではマルチメディア系を中心した科目を担当しています。プロのクリエイティブな映像製作環境である Adobe 製のソフトのトレーニングを通して、自分の可能性を広げて下さい。ICT 特定プログラム生には DTM を利用したミュージッククリエイション、Autodesk Maya でのモデリング・アニメーション、Unity を利用したゲーム製作の指導も行っています。



たなか まこと
田中 真

情報教育センター第7研究室

主な担当授業

アドバンストインフォマティクス A,B, ソフトウェア工学,
ネットワーキング等

研究テーマ

デブリ衝突計測システムの設計と製作,
宇宙航空管制システムの開発

学生の皆さんへのメッセージ

情報教育センターの授業では、ネットワークとプログラミング、その応用分野の授業を担当しています。ICTに関わる1つ1つの専門用語を、頭の中で知識のネットワークとして形作ることを意識して話をしています。

また ICT 特定プログラムの中では、身の回りのニュースや時事問題の情報も取り込み、時代のニーズやキーテクノロジーを考慮した iPhone、Android のアプリ開発について講義を行っています。



しらすわ ひでたか
白澤 秀剛

情報教育センター第8研究室

主な担当授業

システムオペレーション入門, データベース,
ビジネスコンピューティング A,B 等

研究テーマ

人工衛星の磁気管理,
アクティブ・ラーニングの教育効果に関する研究

学生の皆さんへのメッセージ

スマートフォンの登場で、コンピュータの仕組みや原理を知らなくても、情報に簡単にアクセスできるようになりました。つまり、操作の上手い下手ではなく、情報の扱い方の上手い下手そして、やりとりする相手とのコミュニケーション能力が重要になってきているということです。

現代社会の求める、そして就職先の企業が求める情報スキルやコミュニケーションスキルを、副専攻や ICT 特定プログラムで身につけてください。



おき まこと
沖 真

情報教育センター第9研究室

主な担当授業

情報システム入門 A,B, コンピュータグラフィックス等

研究テーマ

流れの数値シミュレーションと可視化,
ユニバーサルデザインに関する研究

学生の皆さんへのメッセージ

情報教育センターでは様々な情報処理科目を開講しています。自分の今までの履修状況や将来も考慮して配布資料やシラバスなどをよくみて学習計画を立てて、受講するようにしてください。同じ科目名でも担当教員によって内容が多少異なることがありますので、受講したい科目のシラバスは事前によく読んで、ガイダンスには必ず出席してください。受講者が教室定員を超える場合にはガイダンス時に抽選を実施する場合があります。



さかた けいじ
坂田 圭司

情報教育センター第10研究室

主な担当授業

情報の科学, プログラミング科目, 情報システム入門 A 等

研究テーマ

3D・AR 技術システムの研究開発, ロボティックス
フライトシミュレータの開発

学生の皆さんへのメッセージ

これからの情報社会では、「使う」力に加えて「つくる」能力が求められています。

皆さんがいる学科や専攻では学べない、実践的な情報の授業を通して、コンピュータやネットワークを用いた「自分の作品」を作れるようになるのが目標の一つです。

さあ、一緒に作り出していきましょう！

遠慮せず、授業外や研究室でも相談に来て下さい。



みやち たいぞう
宮地 泰造

9号館 4階 420 研究室

主な担当授業

アドバンストインフォマティクス A,B,
Web クリエイション入門等

研究テーマ

人間-ロボットコミュニケーション, 電子本,
デジタルサイネージ, 5D マップ, 質の高い生活デザイン

学生の皆さんへのメッセージ

楽しく、易しく 自分流で!!
・電子絵本と低視力者用 UD デザイン, ・ロボットと人間の以心伝心/協創: SNS 活用, 超音波スピーカ, ・未来型ウェアラブル端末、観光 ICT と未来の乗物, 車イスロボット・人間行動支援と創造力増進, ・防災/安全避難支援, ・デジタルサイネージとビジネスモデル/街コン/街活性化, ・ロボット/センサーのネットとクラウド知識サーバ, ・質の高い生活/街/交通の設計: 英仏日等



くりた だいさく
栗田 太作

伊勢原校舎 1号館 6F02 研究室

主な担当授業

データアナリシス, プログラミング科目等

研究テーマ

近赤外光による脳機能測定法

学生の皆さんへのメッセージ

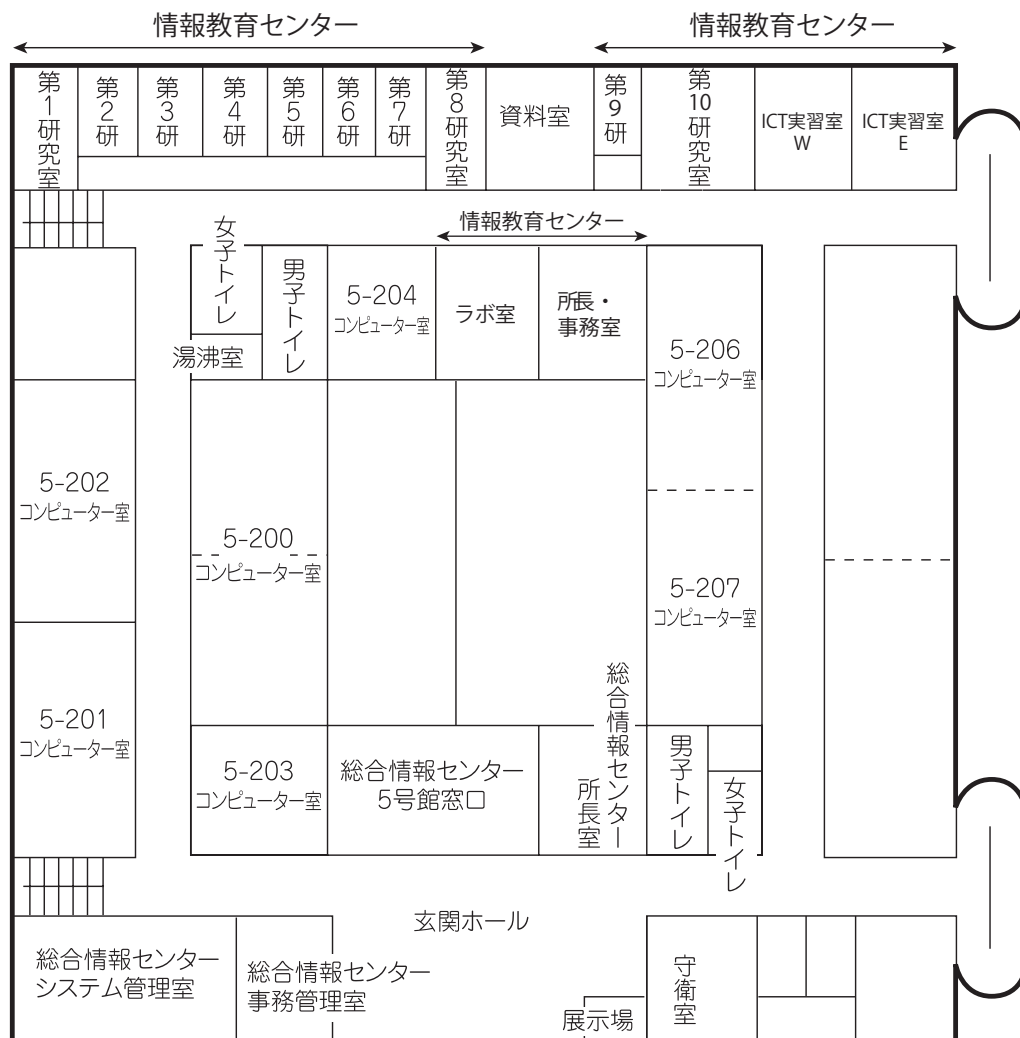
皆さんが、現在そして未来に抱える様々な課題に対応するために、ICT(情報通信技術)の活用は必要不可欠なものとなっています。情報教育センターでは、先駆的な ICT 基盤を備えており、多分野における ICT の効果的な活用の促進に取り組んでいます。

この他にも、授業を担当されている非常勤講師の先生方がいます。
非常勤講師は研究室を持っていませんので、
質問は、授業時での教室または最寄りの講師室までお願いします。

施設案内

情報教育センターの主な研究室は、
東海大学湘南キャンパス5号館2階です。

(神奈川県平塚市北金目 4-1-1)



東海大学湘南キャンパス・5号館
南側玄関

東海大学情報教育センター

<http://ictedu.u-tokai.ac.jp/>